

令和3年度「飼料用米多収コンテスト」受賞者の取組概要

褒賞名	茨城県農業再生協議会長賞
受賞者名	直井 清
所在地	つくばみらい市
品種名及び作付面積	1.4ha(夢あおば)
10a当たり収量	723kg(移植および 乾田直播)
地域の平均単収からの増収	180kg
移植日	移植:5月1日(4月3日播種、播種量200g/箱) 乾直:4月4日播種(播種量5kg/10a、条播、畝間30cm)
施肥(基肥)	飼料用米一発肥料BBファイト066(30-6-6) 移植:4月24日、30kg/10a (窒素9kg/10a) 乾直:4月4日、33kg/10a (窒素10kg/10a)
施肥(追肥)	1回目 移植:6月27日、 乾直:7月3日 2回目 移植:7月17日、 乾直:7月24日 1・2回目ともに硫安(N21%) 9.5kg/10a (窒素2kg/10a) 1回目 + 2回目:窒素4kg/10a施用
収穫日	移植:9月4日 乾直:9月12日
取組内容	<p>経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 ・家族経営(本人、妻、息子(兼業)の3名および期間雇用2名)により、水稻2haの水稻単作経営。3年前より、コシヒカリで乾田直播栽培(0.4ha)に取組み始めた。</p> <p>多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 ・R2年まではコシヒカリのみ。米価の低下に対応するため、R3年はコシヒカリに加え、飼料用米専用品種を導入し、経営の安定化を図った。JAの助言もあり、早生で耐倒伏性に優れる「夢あおば」を選択。これまでコシヒカリで行っていた乾田直播(0.4ha)は、「夢あおば」で実施するとともに、1ha分を移植で実施した。</p> <p>多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) カメムシ類防除の徹底。近隣のドローン保有者に適期防除を依頼。 育苗期間を長めにし(約1ヶ月)、やや大苗かつ健苗育成に努めた。 移植時期は5月初旬。植付本数は5~6本/株にし、コシヒカリよりやや多めに設定。栽植密度は62株/坪。育苗箱の使用枚数は約18枚/10a。 生育状況を確認し、追肥は2回実施した。 分けつを促進するため、強い中干しは行わないようにした。 秋耕は荒起こしとし、収穫後早めに実施した。JAから勧められたアヅミン(腐植酸約50%、20kg/10a)を施用した。</p> <p>生産コスト削減等の取組効果について具体的に記載 ・低価格帯の肥料の活用。 ・自宅の周辺に農地を集積しており、作業の効率化につながった。</p>

令和3年度「飼料用米多収コンテスト」受賞者の取組概要

褒賞名	鹿島地域飼料用米生産利用推進協議会長賞
受賞者名	木村 孝正
所在地	銚田市
品種名及び作付面積	4.56ha(あきだわら)
10a当たり収量	705kg
地域の平均単収からの増収	168.4kg
移植日	5/13～19
施肥(基肥)	4/10～15 オール14 30kg/10a 田植え同時 オール10(液肥) 20kg/10a
施肥(追肥)	7/28～29 尿素 5kg/10a
収穫日	9/28～10/1
取組内容	<p>・経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 家族経営(本人、妻、期間雇用数名)により、水稻6.7 ha、ホウレンソウ30 aの複合経営。地域の担い手として、水田作業の受託を行う等、経営規模の拡大に取り組んでいる。</p> <p>・多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 H27年からJAのアドバイスにより多収で耐倒伏性に優れる知事特認品種「あきだわら」を導入、多収性を確認できたことから年々導入面積を拡大しており、令和3年産では経営面積のおよそ7割で飼料用米を生産している。</p> <p>・多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) 苗質の向上のため165g/箱となるよう播種、太く健康な苗づくりに努め、初期生育の確保につなげている。収量を確保するため、例年7月上旬から約2週間の中干しや間断灌漑を実施し、田面を硬くして稲の倒伏を防ぐとともに、根張りをよくして良好な登熟に努め、未熟粒の発生を抑えている。また、生育に応じて追肥を行うなど、多収の達成のために基本技術を励行している。 また、多肥栽培での紋枯病発病による倒伏を防ぐため、モンカット粒剤を散布するなど、病害虫防除にも取り組んでいる</p> <p>・生産コスト削減等の取組効果について具体的に記載 疎植栽培に取り組み、使用育苗箱は慣行18枚/10aに対し、13枚/10aと約2000円/10a削減するとともに、株間の風通しを良くし、病害リスクを低減させている。</p>

令和3年度「飼料用米多収コンテスト」受賞者の取組概要

褒賞名	協同組合日本飼料工業会企画振興委員長賞
受賞者名	(株)レイクフォー 代表 栗山 茂 氏
所在地	行方市
品種名及び作付面積	7.37ha(あきだわら)
10a当たり収量	703kg
地域の平均単収からの増収	148.7kg
移植日	4月25日,26日,28日,30日
施肥(基肥)	田植同時 BBファイト066 30kg/10a (窒素9kg/10a)
施肥(追肥)	無
収穫日	10月1日 ~ 10月5日
取組内容	<p>経営形態・経営面積・作付品種及び各面積 役員4名、従業員3名の法人経営で水稲45ha、施設野菜(ミズナ)2.3haの複合経営。地域の担い手として、農地中間管理機構を活用して農地集積および団地化を進めている。</p> <p>多収品種への取組状況(取り組んでいる期間や経緯等)・作付品種及び面積・品種選択の理由等 平成27年から飼料用米の生産に取り組んでいる。当初は「ゆめひたち」、「チヨニシキ」、「あきだわら」の3品種を栽培していたが、令和元年から飼料用米の全面積を安定的に多収である「あきだわら」1品種に切り替えた。</p> <p>多収を達成するために取り組んだことについて (播種形式・施肥方法・水管理等、生産性向上に向けた取組) 「あきだわら」を4月下旬、主食用早生品種5月上旬、主食用中生品種5月中旬に移植することで、収穫時期の作業効率向上および十分な登熟期間確保による収量向上を図っている。 今年から、施肥方法を全面施肥から側条施肥に変更し、省力および肥料の利用率を高めた。</p> <p>その他コスト削減等の取組があれば具体的に記載 高密度播種育苗栽培技術(230g/箱)に取り組み、10aあたりの苗箱使用数を11~12枚に削減している。 除草剤および育苗箱施用剤は担い手直送規格を利用し、肥料はPKセーブ発肥料(BBファイト066)の予約注文でコストを削減している。</p>